

小田原市教育委員会定例会会議録

1 日時 平成22年7月29日(木)午後6時00分～午後8時10分

場所 小田原市役所 全員協議会室

2 出席した教育委員の氏名

1番委員 山田浩子

2番委員 前田輝男 (教育長)

4番委員 和田重宏 (教育委員長)

5番委員 山口潤

3 説明等のため出席した教育委員会職員の氏名

学校教育部長 川久保 孝

生涯学習部長 三廻部 洋子

生涯学習部次長・生涯学習政策課長事務取扱 関野 憲司

教育総務課長 曾我 勉

教職員担当課長 長澤 貴

教育指導課長 西村 泰和

生涯学習センター担当課長 高橋 幸男

青少年課長 瀬戸 伸仁

教育指導課長補佐兼指導主事 栗畑 寿一朗

生涯学習政策課課長補佐 小澤 克之

教育研究所長 小泉 信二

学校教育課指導主事 堀 賢一郎

教育指導課指導主事 中畑 幹雄

教育指導課指導主事 鈴木 一彦

教育指導課指導主事 奥村 真佐美

文化財課主幹・担当主査 山口 剛志

(事務局)

教育総務課長補佐・総務担当主査事務取扱 向 笠 勝 彦

教育総務課上級主査 瀬 戸 英 樹

4 協議事項

- (1) 市民学習フロアについて (生涯学習政策課) 【非公開】

5 議事日程

日程第1 議案第11号 小田原市社会教育委員の委嘱について(生涯学習政策課)

6 報告事項

- (1) 市議会6月定例会の概要について(学校教育部、生涯学習部)

7 協議事項

- (2) 教育委員会事務の点検・評価(案)について(教育総務課)
(3) 平成23年度使用小学校教科用図書採択に向けての協議について(教育指導課)

8 議事等の概要

- (1) 委員長開会宣言
(2) 会議録署名委員の決定…山田委員、前田委員に決定

和田委員長…それでは、議事に入る前に、会議の非公開についてお諮りします。協議事

項(1)「市民学習フロアについて」は、平成22年9月小田原市議会定例会へ提出を予定している案件であるとともに、市議会定例会への提出前であり、その性質上、これを非公開といたしたいと存じます。

よって、本協議事項を非公開とする件について、採決してよろしいでしょうか。

(異議なし・全員賛成)

和田委員長…ご異議もないようですので、協議事項(1)を非公開とすることに賛成の

方は、挙手願います。

(全員挙手・全員賛成)

和田委員長…全員賛成により、これより非公開での審議といたします。

(関係者以外 退出)

【(3) 協議事項 (1) 市民学習フロアについて を協議】

(関係者以外 入室)

(4) 日程第1 議案第11号 小田原市社会教育委員の委嘱について (生涯学習政策課)

提案理由説明…教育長、生涯学習部次長

前田教育長…それでは、議案第11号「小田原市社会教育委員の委嘱について」を御説明申し上げます。社会教育委員につきましては、平成22年7月31日をもって、2年間の任期が満了いたします。その後任につきましては人選をいたしましたところ、別紙のとおり候補者名簿がまとまりましたので、8月1日から委嘱しようとするものであります。細部につきましては、所管から御説明申し上げます。

生涯学習部次長…それでは、議案第11号の「小田原市社会教育委員の委嘱について」につきましては、私から細部説明申し上げます。小田原市社会教育委員の任期は、小田原市社会教育委員条例により2年間と定められており、7月31日をもって、任期満了となります。そのため、社会教育法第15条第2項の規定に基づき、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から選考いたしましたところ、別紙資料の名簿にございます13名の方々が社会教育委員として適任と思われますので、新たに委嘱いたしたく提案するものです。なお、この13名の方々のうち9名の方は、市校長会、市PTA連絡協議会、

自治会総連合及び市議会などから御推薦をいただいております。また、名簿に記載いたしましたとおり、公募により2名の方を選考いたしました。この公募につきましては、6月15日号の広報紙や市のホームページ等により周知いたしましたところ、6名の方から応募がありましたので、小論文及び面接による審査を行い、決定したものでございます。社会教育委員の任期につきましては、平成22年8月1日から平成24年7月31日までの2年間となります。よろしく御審議くださいますようお願いいたします。

(質 疑)

山田委員…新しく公募されたお2人は、6人の中から選ばれたとのことですが、どのような観点で選ばれたのでしょうか。

生涯学習部次長…公募の条件といたしまして、履歴書に相当します申込書を提出していただきますが、その中にそれぞれの方々の社会活動歴や資格、応募の動機等を記載していただいております。また、「私の考える生涯学習」という題で800字程度の小論文を提出していただきました。それらの書類と生涯学習部と学校教育部の職員による面接を実施し、総合点という形で審査をいたしました。

(その他質疑・意見等なし)

採決…全員賛成により原案のとおり可決

(5) 報告事項 (1) 市議会6月定例会の概要について(学校教育部、生涯学習部)
事務局説明…学校教育部長、生涯学習部長 資料2を基に説明

(質疑・意見等なし)

(6) 協議事項 (2) 教育委員会事務の点検・評価(案)について(教育総務課)

教育総務課長…それでは、私から「教育委員会事務の点検・評価（案）について」を、ご説明いたします。この点検・評価は、教育委員会5月定例会におきまして実施方針についてご報告をさせていただき、作業を進めてまいりました。その結果、原案として、資料3の冊子としてとりまとめましたので、ご説明いたします。この教育委員会事務の点検・評価については、一連の教育三法の改正に基づきまして、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正により、平成20年4月1日から事務の点検をするようにということで、事務の点検・評価をして、外部の知見を入れた客観的な評価を議会に報告し、市民に公表するという一連の手続きであります。私どもでは、ホームページに内容を掲載したり、小田原の教育という冊子などで教育委員会の活動内容等については個々にお知らせしておりますが、この点検評価というものを総合的に客観的な視点も入れて議会に報告しております。その結果については、教育委員会が効率的な教育行政を推進していくために、さらに小田原市においては、来年度教育振興基本計画を作成すること、また来年度計画しております総合計画の対応に生かせるようにしたいと考えております。作成にあたりましては、前回・前々回の報告書を基に、様々な方々から意見をいただきながら改善し、報告書の原案を作成いたしました。学識経験者につきましては、資料の1ページの下段に記載いたしましたが、昨年度に引き続き文部科学省国立教育政策研究所 教育政策・評価研究部長の葉養正明氏、関東学院大学法学部 准教授の鈴木みゆき氏にお願いいたしました。また、小田原市PTA連絡協議会から幹事の安池美菜子氏をご推薦いただき、学識経験者をお願いいたしました。今後は、8月6日に学識経験者にご意見を伺うとともに、昨年度同様、教育委員の方々とも意見交換の場を設けさせていただきますので、その際ご意見をいただき、この報告書に反映させるなど修正を加えながら完成させてまいります。内容については前年度同様の方式で進めさせていただきますので、教育委員の皆様から内容についてのご意見をいただければありがたいと思います。また、8月の定例会において、最終案をまとめあげ、9月の議会に報告することを予定しております。以上で説明を終わらせていただきます。よろしくご協議くださいますようお願いいたします。

(質疑・意見等なし)

和田委員長…教育委員会事務の点検・評価については、次回8月の教育委員会定例会で議決する予定ですので、ご意見につきましては、8月5日までに事務局にお寄せいただきたいと思います。以上で、「教育委員会事務の点検・評価(案)について」を終わります。

(7) 協議事項(3) 平成23年度使用小学校教科用図書の採択に向けての協議について(教育指導課)

教育指導課長…それでは協議事項(3)の「平成23年度使用小学校教科用図書の採択に向けての協議」についてご説明申し上げます。前回の26日の臨時会において、7種目の教科について採択に向け、協議していただきました。今日は、残りの4種目について協議していただきます。具体的には図工、家庭、保健、生活の4種目について協議をいただき、2社から3社に絞り込んでいただきます。そして、次回の8月5日の臨時会において、採択をしていただきます。すでに県教育委員会が作成しました「調査研究資料」や、小田原市の調査員による「調査研究報告」についてはすでにお読みいただいておりますので、本日も各教育委員の皆様が、独自に調査研究していただいたものをもとに協議していただき、小田原の児童にとって、もっともふさわしい教科書を選んでいただくこととなりますので、よろしくお願い申し上げます。なお、前回の臨時会で絞りきれなかった国語と書写の2種目についても、本日再度協議をしていただき、2社から3社に絞り込んでいただければと考えておりますので、あわせてよろしくお願い申し上げます。

和田委員長…先日7月26日に実施いたしました、教科用図書採択のための協議の続きを始めます。残りの各種目ごとの協議を順に進めていきますので、前回同様、教育委員の皆さんには積極的にご意見をいただきますよう、よろしくお願いいたします

①種目 図画工作

和田委員長…今回は、図画工作、家庭、保健、生活の4教科についての協議を行います。

それでは、最初に図画工作から始めます。前回と同様に県教委からの資料、小田原市の調査員の先生方が作成した調査票を、皆さんは詳しくお読みいただいていますので、今日の図画工作の協議の際の柱として、いくつか観点を絞り込みたいのですがいかがでしょうか。

前田教育長…図画工作は、「東京書籍」「日本文教出版（以後「日文）」」「開隆堂」の3社があります。図画工作の教科書選定の視点として、3つございます。1つは「児童が感性を働かせながらつくりだす喜びを味わえること」、2つは「表現や鑑賞の内容の題材が発達の段階に応じて適切に選択されていること」、3つは「印刷やレイアウトが色彩豊かでバランスのとれた構成になっていること」、が考えられます。

和田委員長…それぞれの委員の方々から意見をお願いします。

山田委員…私は絵を見たりするのが好きなので、3つの教科書を比べて、子どもの意欲をひきたてるように楽しく作っていると思いました。まず、東京書籍ですが、「めあて」という項目が最初にあって、簡単にシンプルに表されていて、子どもが何をこの項目では目指していくかがきちんと理解しやすく書いてありました。身近な材料で楽しく独創的な作品が生み出されることが良く示されていると思いました。また、全体的にバランスがとれてよかったのですが、プロの作品として、3・4年生に岡本太郎さんの「太陽の塔」があって、5・6年にも岡本太郎さんの「明日の神話」があり、岡本さんは川崎に美術館がありますので、地元ではありますが、一人の作家を取り上げすぎていて、素晴らしい方ですが、個性が強いのので、気になりました。日文は地域の特色や色合いを大事にしている、日本の輪島塗や白川郷の合掌づくりなどを紹介していて、日本の伝統的なものの美術的な良さを子どもたちに示していて、とても良いと思いました。また、低学年は身近な材料で楽しく、中学年は外に出て、学校を布で飾ったり、海で造形したり、高学年はもっと進んで、校外の町の人との交流があり、街角美術館とか校内の展覧会を皆さんに来てもらうなど、段階的などころが良かったです。開隆堂は最初の見開きを大きく使って、風神雷神像の屏風とか、岡本太郎さんやマチスなど、素晴らしい作品を最初に載せているのが良いと思いました。また、全体的に明るい生き生きとした力が感じられ、のびの

びとした印象を受けました。

和田委員長…ほかの方の意見はどうでしょう

前田教育長…まず、東書ですが、カラーインデックスに「イメージする」「見せあう」「感じあう」「発表しあう」など、子どもたちがどういうことをするか分かりやすいので、これは良いアイデアだと思いました。また、單元ごとに黒板型のコーナーがあり、目当てが書いてあり、子どもに分かりやすく、活動に取り組みやすい。今申し上げたこの2点が良いが、逆に丁寧すぎる面もありますが、工夫されていると感じました。ほかに、2学年合冊として、題材の関連、系統性が分かるようになっています。1ページで題材が異なると、子どもたちの入り方、没頭の仕方が変わってくることもありますが、1題材について見開きの2ページになっているので、非常に見やすいです。光と影を利用したアートやOHPや懐中電灯での活動や、漫画に挑戦できるコーナーなどがあり、活動のバリエーションが多様であり、多面的な見方をしていると感じました。ただし、2年間で1冊のため、各学年で年間計画をしっかりと作らなくてはなりません。2学年の教員が集まり、2年間の指導計画をつくらなくてはいけない。先生方は大変になると思いますが、勉強になると思います。次に開隆堂ですが、低学年ほど造形活動が多いような印象があります。絵画領域の作品が若干少ないように思います。評価や鑑賞の場作りができなくなるのかなといった感じを受けました。あと写真や絵のバックに色やぼかしなどをいれ、作品が生きるように工夫されています。また、目次やジャンルが分かりやすい、主な用具や材料も書いてあり便利だと思いました。全学年にみんなのギャラリーとあり、日本各地のアート情報などが写真付きで載っています。ここには神奈川県も相模原市などの3市が載っています。次に日文ですが、アニメーションをつくろうとか題材のネーミングが「あっ、これなあに」など、興味を引くものになっています。楽しい作品づくりというところで、アニメーションをつくる4つの方法が紹介されているほか、墨から感じる形や色、墨や和紙を活用して絵に表すなど、多様な活動に触れられています。また、教科との関連を生かした活動が入れられています。高学年の下に、家庭科の毛糸の編み物と関係したもの、宮沢賢治の「やまなし」のように国語と関連してお

り、生活科で身近な場所・空間・環境に関連したものが載っています。ただし、ふきだしがたくさんあるのが、子どもの思考の手助けになると思いますが、その反面、子どもの自由な発想を妨げることになるリスクがあると感じました。

和田委員長…前田教育長の話にもありましたとおり、開隆堂と日文の特徴が分かりやすいと思います。開隆堂は造形活動が多く、日文は絵画活動が多い。その点、東書は両方バランスが取れている感じを受けました。いわゆるレイアウトや印刷の面では、いかがでしょうか。私はいわゆるレイアウトや全体のデザインは、まさに図画工作、アートの狙うところ、目指すところだと思います。そういう意味では、東京書籍では、図画工作だけでなくいろいろな教科を見ても、ずば抜けてバランスがとれている印象を受けます。特に教科の特色からいって、レイアウトやデザイン性は、非常に評価に値するのではないかと感じました。ほかに何かお気づきの点はありますでしょうか。

山田委員…図工の大事なところは、「答えは何でもありだ」というところだと思います。そのため、その子どもが感じたことが正しいので、日文のふきだしのよう「答え」がないほうが良いと思います。例えば、葛飾北斎の「富嶽三十六景」の箇所には解説がありますが、子どもが色々感じることもあると思います。先ほど前田教育長もおっしゃっていましたが、子どもの独自性、その子なりの感性を大事にしたいと考えます。

和田委員長…ほかにありますでしょうか。

前田教育長…今の意見に関係するのですが、図工は教科書というより、資料だと思ったほうが良いと思います。教科書を活用する点から考えて、子どもの表現とか鑑賞力を高めるのに役立つもの、気付きや発想のヒントがたくさん載っているものが、優れている教科書だと思います。その点では、東書はレイアウトも質も良く、子どもたちに良い作品にふれる機会を与えていると思います。

和田委員長…今までのご意見からすると、東京書籍の評価が良い感じがしますが、2社から3社くらいに絞るとなると、どうなりますでしょうか。日文と開隆堂はいかがでしょうか。

前田教育長…開隆堂は興味関心に合わせて選択できる題材がたくさんあり、何でも取り

組めるような作品例が掲載されています。子どもたちの気付き、創作のヒント、創作意欲を高めるという観点から、優れていると感じます。

和田委員長…それでは、今のところは、東京書籍と開隆堂の2社で絞ってよろしいでしょうか。

(異議なし・全員賛成)

和田委員長… 最終の採択の際にまたご意見を伺いたいと思います。

②種目 家庭

和田委員長…それでは、次に、家庭科の教科書に移ります。家庭科の教科書は、東京書籍と開隆堂の二つの教科書です。2社しかありませんので、さっそくそれぞれの教科書について、御意見を伺いたいと思います。2社とも教育基本法、学校教育法、学習指導要領などの目標を踏まえ、学習内容がバランスよく組み立てられていますが、それぞれの教科書の内容についてはどうですか。

前田教育長…東京書籍は、巻頭に食育チェックや環境チェックのページがあり、子どもたちの意識付けに役立っていると思います。「伝統や文化に関する教育」の点では、随所に「日本の伝統」としてコラムを設け、着物の生地・布、日本料理のだしのとおり方、和食の配膳の仕方、冷房がなかった時代の涼しく感じる工夫など、日本の昔からの知恵や工夫を紹介しています。「言語活動」の点では、話し合い活動のコーナーや、学習カードなどが具体的に提示されています。また、自分の生活を見つめ考えることから、導入させている点が、高学年の児童に適切であると強く感じました。「これだけはできるようにしよう」というコーナーがありますが、それを見れば朝食づくりや掃除、ミシンを使った物づくりなど幅広く実践・体験できるようになっています。生活を振り返ったり、学習後に実際の生活に生かす活動が多く工夫されています。図やイラストも効果的で、手縫いの説明では、縫い針を持つ手の写真があり、分かりやすいと思います。開隆堂は、手縫いの説明では、縫い針と縫い目のみの写真で、針の持ち方が分かりにくいと思いました。“緑のカーテン”や“屋上ガーデン”などの環境的なものが紹介さ

れていること、自分たちの生活を振り返り、学習後に実際の生活に生かせる活動度に入っているところが良い点だと思います。

和田委員長…今、東京書籍と開隆堂について前田教育長から意見がありました。細かく内容を分けてというより、会社ごとに、ご自由にご意見いただければと思います。

山田委員…東京書籍は、調理実習など、シンプルで分かりやすく、鮮明に書いてあるので、実際に子どもが作るときに理解しやすい内容でした。調理実習だけではなく、前田教育長もおっしゃっていましたが、針の持ち方ですが、布にしつけをするところでも、実践的で分かりやすいと思いました。日本の伝統文化に対する教育では、昔ながらの、夏を涼しく過ごす方法や洗濯板を紹介したり、ご飯は左、味噌汁が右ということや、箸の持ち方まで随所にあり、良いと思いました。また、今のお母さん方が、湯冷ましをしておいしくお茶を入れることをやっているか分かりませんが、東京書籍も開隆堂ともに、日本茶の入れ方が載っています。また、東京書籍は、单元ごとに目当てや目的が示されているほか、食べることがとても大切だという構成になっていると感じました。開隆堂も伝統文化に対する教育で、江戸時代の「味噌汁一ぱい3里の力」という味噌汁の大切さの話や、昔ながらの調理方法や郷土料理の紹介などがありました。開隆堂が一番良かったのは、五大栄養素の表が教科書の一番最後にあり、見開きで長く出るようになっており、調理実習の時にいつでも五大栄養素の表を見ることができるようになっているので、現場の先生が使いやすいので、とても良いと思いました。

前田教育長…先ほど言おうとしたことですが、東京書籍は、食育と環境のことが、1ページ目からあり、この「見つけよう・計画しよう」から続けて、「食育チェック」「環境チェック」があり、これらの中身をおっていけば、市民生活、職業生活を大事に扱っていけることや、食文化について、観点が良いと感じました。もちろん、開隆堂も配慮されており、教科書の中ほどに「環境を考えたエコライフ」というコーナーがあり、まとめたことを発表しようとか、自分でできることなどが書いてあります。

和田委員長…私が感じたことを申し上げます。社会的状況を反映した題材を取り上げて

いるかどうかで見ましたところ、見直そう食事と生活のリズムというところで、その乱れが様々な問題を引き起こしているという点で、東京書籍は先見性があるように感じました。時代をとらえていると思います。開隆堂も上手にお金を使おうということで、現金だけではなく、キャッシュレスの支払い方法についてふれていますので、現在の社会状況にあわせていますが、どちらかという、東京書籍のほうが大事なテーマだと感じました。検討委員会でこれに付け足すような意見がありましたら、お願いします。

教育指導課長補佐…検討委員会でも、五大栄養素など、先ほど山田委員さんがおっしゃった内容がありました。また、現場の先生にとっては、東京書籍のほうが指導しやすく、2年間のバランス感覚がすぐれているとの意見がありました。

和田委員長…全体的には東京書籍のほうが優れているように感じました。採択の決定は8月5日ということですので、それまでにご検討ください。

③種目 保健

和田委員長…次に保健に移りたいと思います。協議の観点としていくつか提示をお願いいたします。

前田教育長…5点ほどありまして、1つは児童が主体的に取り組めるよう、課題をもち、課題解決に向けて取り組み、過程を振り返ることができる構成になっているか。2興味関心が高まるよう、イラスト、写真、事例等の資料が身近な生活に関する内容で、分かりやすく工夫されているか。3思考力・判断力が身に付き、実践的な理解が深まるよう、知識を活用する学習活動が適切に取り上げられているか。4言語活動や体験活動の充実等、学習指導要領における改善事項の充実が図られているか。5社会的状況を反映した題材を取り上げ、児童が興味を持って学習できるよう配慮されているか、などが挙げられます。

和田委員長…「内容」「構成・分量」「表記・表現」とともに、どこの教科書もそれぞれ工夫がなされているようです。特に、他教科との関連を図ったり、写真やイラストを効果的に取り入れたりして、内容理解を促すよう構成されている点は甲乙付けがたいと思われそうですが、いかがでしょうか。山口委員が専門

ですから、そういう視点でいかがでしょうか。

山口委員…上巻と言いますか、3・4年生の中学年向きの方では、生活習慣、規則正しい生活をさせるというのが分かりやすいかどうかを見てみましたが、東京書籍ばかりではないですが、東京書籍は、良い生活のリズムと良くない夜更かしして夜遅くまでゲームしてテレビを見ていてというのが漫画で分かりやすく書いてあります。どっちがいいでしょうというふうに、子どもがそれを見れば分かり、翌日に授業に集中できないとか具合が悪くなるのが書いてあり、東京書籍が一番良かったです。光文書院も似たような感じでしたが、見やすさは東京書籍の方でした。自分で見直して、できているか丸をつける欄はどこもありますが、つけ方に関しては、東京書籍・光文書院より他の3社の方が書きやすいようです。一週間分を見直すことと一日分を見直すこと、どっちが子どもにとって楽かなと考えました。昨日一日どうだったかの方がいいのかなという気もしました。今は感染症の時代で、手洗いをしっかりさせなければいけません、手を洗わないとどこにばい菌が付くかということは、全社、寒天を使った培養の写真が出ており、ではどうしたらよいかとどれだけ書いてあるのかを見ました。文教社は、手はこういうふうに洗いましょうというのが全部写真で出ています。写真が使われているのは1社だけ。また、洗い方は書いていませんでしたが、この辺の汚れが落ちにくいなどと書いてあったのが大日本図書でした。どこもそれぞれ良いところがあると、3・4年の中学年では思いました。体の発育とかは見やすさが問題なので、その辺ははっきりと東京書籍が一番分かりやすく書いてあると感じましたが、5・6年の高学年で今の時代を考えると、いろいろな犯罪に巻き込まれるという問題と、飲酒・薬物・喫煙の問題にどれだけページを割いているか、分かりやすく書いているかを意識して見ました。事故・誘拐とかの犯罪に巻き込まれないようにするにはどうしたらいいかということで考えてみると、東京書籍は具体的な注意点では非常に分かりやすく書いてありました。逆の見方で、光文書院は、こういう時は私ならどうしますかという、自分の意見を書かせる欄があったのは、こちらの方が実践的なのかなと感じました。薬物とか喫煙・飲酒がどれも悪いというのは書いてありますが、「元気になる薬

だから飲んでごらん」とか、アルコールとかを勧められた時にどういうふうに断るかというロールプレイを、アルコールと煙草等すべてにやらせているのは文教社だけでした。東京書籍はアルコールと煙草だけで薬物のところのロールプレイがなかったり、光文書院はアルコールのロールプレイだけだとかで、3つともやっていたのが文教社だけでした。あと文教社で良かったのは、歯をみがき直ししましょうとか歯周病とかの写真はみんな出ていますが、歯垢チェッカーを使って赤くなる歯垢がたまりやすい所はこの辺というのは、文教社にはイラストが出ていました。病気の説明はどれもインフルエンザや食中毒を扱っていたり、エイズでは偏見をなくしましょう、こういうことではうつりませんよということは、全部ではありませんが多くの社は出ていました。文教社は、エイズについての説明がイラストと文字の両方で書かれていたので小学生には分かりやすいと思いました。私の意見では、東京書籍、光文書院、文教社それぞれに良い所があり、絞りきれませんでした。

山田委員…私は母親としての立場で見させていただきました。前に学校を回った時に、母親たちには、性教育をちゃんとしてほしいという意見が割りとあったので思春期の体の変化と犯罪被害の防止というところを中心に見ました。みんなよく書いてありましたが、東京書籍は、とても見やすいイラストで体の変化を書いていました。また、心の健康で、困ったときの具体的な相談先が書かれていました。悩んだり、不安になった時に、文部科学省の24時間いじめ相談ダイヤルのナンバーや、警察庁の少年相談窓口の番号、チャイルドラインの番号、時間帯とか全部書いてあるので子どもたちは本当に悩んだ時に結構相談できないでいると思うので、教科書に具体的に番号が載っているのは安心します。犯罪被害の防止も具体的にどう行動したらよいかを書いてありますし、スポットメモというハート型のメモがちょこちょこ書いてありますが、「気持ちよく生活する」「心配しないで、体の発達には個人差がありますよ」とか、「違うのを認め合いましょう」「一人じゃないんだよ」といういろいろなスポットが随所にちりばめられていて、子どもたちも心にすぐ響きやすくとても良いと思いました。光文書院も、はっきり見やすい教科書で、発展としてかわいい赤ちゃんと妊婦の母

の写真があり、新しい命の誕生というところまで触れていて、思春期の体の変化から新しい命の誕生を見せていたところが、学研も大日本図書もそうですが、命を大切にしましょうという命を生み出すことまで書いてあるところが良いなと思いました。それから、先ほど山口委員が言われたように、光文書院の犯罪被害の防止はすごくページを割いていて、家で留守番する時はどうしたらよいかとか、エレベーターに乗っている時に誰かが乗ってきたらどうしたらよいかなど、すごく具体的に子どもたちに実際にあり得ることを考えさせるように入れているのがとても良かったと思います。それから、思春期のところで、性の違いを見つめあい、助け合って男女が協力していくことがすごく大切ということが示されていてとても良いと思いました。文教社も不安や悩みへの対処の仕方が、具体的に一人ぼっちじゃないのでいろいろこういうことで対処しましょうという心の健康へのアドバイスが書いてあり良かったと思います。

前田教育長…東京書籍は、単元のはじめに学習課題が問いかけの文で明記されています。それに向けて、子どもたちはどのように課題を解決するかを捉えやすい。単元の終わりでは、「学習を振り返ろう」という知識の定着や課題解決のし方を考えさせるワークシートに書き込むことができ、学習が深められるようになっています。心の発達では、道徳的な扱いがあり、道徳を意識されているか分かりませんが、3コマ漫画であきらさんはどうすると思いますかという問いかけでグッドアイデアであり、書き込みのスペースも結構広く工夫されているなと思いました。あと、病気の予防の扱いがイラスト入りで分かりやすいと思いました。大日本図書は、単元のはじめの提示に、必ず状況を判断するための大きな絵とクロスワードパズルが記載されていて、子どもたちの興味・関心が高まるように工夫されています。病気の予防のクロスワードパズルもちょっと難しいがおもしろくグッドアイデアあります。あと、警察官とか保健の先生などの専門の方々の吹き出しが多くあり、分かりやすく説得力があるなと思いました。光文書院は、体育の副読本などが結構有名だが、学習過程の流れがスパイラルの方法で螺旋形で広がっていくという考え方で、一番最初は今ある力、今ある能力を基本にしていきます。どこの教科書会社もそうだと思いますが、ここを前面に出

して、今もっている、知っていることからスタートしましょうという入り方で、活用－習得のパターンから今ある力を活用して習得すべき知識を身に付けられるようにしていく、2つ目が習得－活用のパターン。スパイラルしながらやっていくような流し方です。鳥インフルエンザが、他一社もありましたが、扱われていました。文教社の場合は、若干私は取り扱いが高度すぎるかなと思います。山口委員が言われるように歯の衛生や薬物に関しても大変素晴らしくよくできており、子どもたちのレベルにどうかと思って読ませてもらいましたが、犬のキャラクターが課題を提示し、子どもたちに自分なりに考えさせるように工夫されています。学研で良いなと思ったのは、安全マップをつくってみようで体験活動を重視し、実際に地域を歩いて危険な場所を発見し、写真を撮ったり地図に貼り付けたりして自分たちで安全マップを作るという活動が入っています。また、新型インフルエンザを扱っていていいなと思います。体育科の体ほぐしとか、理科・道徳・特別活動・総合的な学習との関連が図られています。

和田委員長…各委員から積極的な意見をいただいたが、付け加えることがありましたらどうぞ。それでは保健の教科書から2～3社に絞りたいと思いますが、総合的に判断すると皆さんの意見の中では東京書籍と光文書院、強いて言うならば3つ目に文教社ということでしょうか。レベルが高いのではと言う指摘がありましたが、一応その3つでよろしいでしょうか。

(異議なし・全員賛成)

④種目 生活科

和田委員長…続きまして、生活科の教科書についての検討に移ります。生活科につきましては、「東京書籍」「大日本図書」「学校図書」「教育出版」「光村図書」「啓林館」「日文」の7社の教科書があります。では協議の視点をいくつかお願いします。

前田教育長…生活科では、教科書採択における内容選択の観点としては、4つございます。1つ目は、「自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりが具体的に把握できる内容になっているか」、2つ目は「気づきの質が高まるような多

様な学習活動が扱われているか」、3つ目は「児童の興味関心を喚起させるような活動は発達の段階に応じて適切に取り上げられているか」、4つ目は「児童の理解や習熟の程度に応じた発展的な学習の内容の取扱いは適切であるか」などが挙げられます。

和田委員長…「内容」「構成・分量」「表記・表現」ともに、どの教科書もそれぞれ工夫がなされているようです。特に他教科との関連を図ったり、自然とかかわる活動を繰り返し扱ったりして、内容理解を促すよう構成されている点は、甲乙つけがたいと思いますが、各社それぞれどうでしょうか。

前田教育長…東京書籍は、人とのつながりを重視していて、まわりの人とどのように関わればよいのかが具体的に示されている点、ふり返りや伝え合いなどの言語活動が充実している点が良いと思います。表記された吹き出しなどから、より興味・関心を促し、気づきの質が高まるようになっていると思います。また、單元ごとにルールやマナーを見直すため、随所に約束のコーナーがあり、分かりやすくかかれています。発展的な取扱いですが、「やってみよう」というコーナーがあり、学習したことを深めたり、広げたりする活動例を紹介しています。このほかに、身近な小動物では、ウサギやモルモットがよく取り上げられていますが、今、鳥インフルエンザやノロウィルスの影響もあり、ニワトリはもちろん、ウサギも飼っていない学校が多い。こういったことから、身近な生き物ということで、バッタやコオロギを取り上げているのが良いです。「大日本図書」の「生きものはっけん」の扱いもいいなと思いました。東京書籍では、上巻の最後のポケット図鑑が教師にとって便利だと感じました。子どもたちにとってはやや小さめかもしれませんが、下巻の最後に便利手帳がありますが、これも内容が充実しています。「人と話そう なかよくなろう」「聞いてみよう しらべてみよう」から乗り物の乗り方までここをみればわかるようになっています。夏の遊びの扱いが大きく、夏休みも入っています。季節の単元が充実しているように感じました。大日本図書は、先ほどいいましたが、「生きものはっけん」の扱いがよいと感じました。いろいろな生き物を紹介しており、身近な小動物を紹介しており、良いと思いました。生き物の隠れている場所を透明シートで示されており、良いアイデアだと思いました。家庭生活・

日常生活のことについて、自分の役割に気づかせる活動例が大事だと思いますが、それが触れられていない。言語活動も若干少ないように感じます。学校図書は、話の聴き方やインタビューの仕方が、「学びかたずかん」として載っています。「はなす」「きく」「かく」「そうだんする」「どうぐをつかう」などが下巻の最後に絵入りで載っていて分かりやすく良い。「ものしりノート」に、自然と具体的にかかわる手立てが書かれている点が良い。ただ、シリーズ単元の秋については充実しているが、夏と冬については少ないかと思いました。また、野菜作りの内容が充実しています。野菜作りは、どの会社もとりあげられていますが、日文は16ページもさかれています。小田原は食育や未来へつながる学校づくり推進事業などで、自分たちで生産活動を行っています。野菜づくりでこれだけ詳しい資料があると助かると感じました。教育出版は、巻末の「ぐんぐんちからポケット」に生活科の活動や日常化に必要なスキルがまとめて示されている点などが評価できます。光村図書の印象は、入門期のページの工夫がほしいと感じました。幼稚園や保育園から入ってきて、小学校に入った時に「学校大好き」「友だち大好き」に雰囲気になれる様だとよい。シンプルでレベルは高い。教師にとってはとてもよいが、6歳児にとっては物足りないところがあるのではないかと思います。生き物の観察と飼育のところですが、モルモットが主なので、身近にいるバッタやダンゴムシなどの扱いはあるといいと思いました。「啓林館」は、別冊「せいかつめいじんブック」で、「どうぶつずかん」や生き物の飼い方や花や野菜の育て方などいろいろなものが載っている。子どもは難しいかもしれませんが、教師にとって良いと思います。「日文」は、先ほど申し上げました野菜作りが充実している。展示の仕方が載っていて、工夫されていました。

和田委員長…いろいろ各社の教科書について指摘をしていただきましたが、ほかに何かありますでしょうか。それでは、前田教育長の話になかった部分で感じたことを指摘していきたいと思います。まず、大日本図書で、全体を通して貫かれているのは「人とのつながりを大切にする」ということであると読み取れました。今の、人とのつながりが希薄になっている時代に、こういう視点で貫かれている点が評価できると思いました。「あぶない、じぶんを

まもるために」というがくしゅうどうぐばこという箇所の中に書いてありましたが、実際に公園に行く道すがら、実体験で危険なことを学習する。私は、特に低学年の子どもたちには、判断基準よりも行動基準を示すべきだと思いますので、そういう実体験の場がきちんと教科書の中にあることは、大切ではないかと思いました。このほかに、おもしろいと感じたのは、「しってる？ひつつきむし」という非常に身近なところで、コセンダングサやヌスビトハギ、イノコズチなどで、ちょっと草むらに入ったらひつついてしまうような植物が紹介されていて、これは子どもたちが身近なもので非常に興味を引く、すぐに役立ついいアイデアだと思います。また、末巻のほうに折り紙が載ってまして、なぜ生活科にと首をひねりましたが、この国際化の時代に、外国に行けば、折り紙は最高のコミュニケーション力をもつわけですから、こういうところでふれてあるのは良いと思いました。学校図書は、「しあわせいっぱい」の章で、家の仕事、すなわちお手伝いがあり、とても大切なことだと思います。ごみ捨てや食器洗いなど、働くことの体験、実際に私はもっと年齢の高いひきこもりやニートの人たちと関わりますが、この体験が欠落していると感じています。そのため、ここに重点を置いたのは、今の社会状況を見据えていると思いました。啓林館は、「話して仲良くなろう」とか「家の人に教えてあげよう」「みんなに知らせよう」といった項目で編集されていますが、コミュニケーション力をきちんと付けようという主旨で貫かれていると感じました。そういった「伝えよう」「話そう」といったことを、カードを使いながら表現していく、言語活動にも通じる、きちんとした言語活動を低学年のうちから習得していけるような要素も生活者として必要な視点ではないかと思いました。教育出版で、お話の時間を設定して、言葉を持たない種の気持ちについて、思いを寄せるといったものがあり、自分の体験からも共感しました。実際に種も生き物ですから、命の交流をしますが、言葉を持たない生き物にも共感・理解する姿勢をここで示唆しているのが面白く感じました。あとはクイズ的に「私はどこでしょう」「私は誰でしょう」といった遊び的な部分も入っていて面白く思いました。日文は、同じ場所で四季によって暮らし方が変わることが出ており、生活の面白さ・不思議さに気付かせると

いった視点が評価できると思いました。また、「美しく食べよう」ということで食事のマナー、気をつけたいこととして、「ありがたいの気持ちでいただきます・ごちそうさま」、箸の使い方、背筋を伸ばすことなど細かく書かれています。今、個食時代といわれていて、家族が皆で一緒に食べるのがないので、マナーが伝わっていない。もちろん学校給食の中で指導されていると思いますが、この生活科できちんとまとめてやるのも面白く感じました。最後に、東京書籍は、特に1年生、幼稚園から1年生に入った時の様子については、非常に丁寧に扱われており、大変共感しました。これだけきめ細かにやれたら、子どもたちは安心して小学校生活を送れるのではないかと思います。また、学校の春を見つけよう、とか、街に出かけよう、乗り物に乗ろうなど、行動し体験することで能力開発していこうとしており、今のバーチャル過剰な生活に陥りやすい子どもにとって、実体験というものを教科の中で位置づけて、意識している意図を感じました。この辺は今の社会的状況を見据えていると感じました。今それぞれ申し上げましたが、全体的には東京書籍、学校図書が他社より優れているという印象を持ちました。もちろん前田委員から指摘されたことについても共感することはたくさんありましたが、重複することは省略しました。ほかに何かありますでしょうか。では生活科の採択に際し、会社が多いので、2・3に絞りたいと思いますがいかがでしょうか。

教育指導課長補佐…事務局より、桑原委員に聞き取りましたので報告させていただきます。桑原委員は光村図書を推しておりました。その理由は4つありまして、1つめにホップ・ステップ・ジャンプというように、導入・展開・発展の構成がわかりやすい。2つめに「どうすればいいかな」といった項目があり、自分で考える力を養うのに良い。3つめに意見交換の大切さと能力を育てるための配慮がなされていること、最後に伝統文化の尊重を目的とした「四季の人々の暮らし」で身近に伝統を感じる。この4つの視点で光村図書を推しておりました。

和田委員長…これまでの協議から、今日の段階では「東京書籍」と「学校図書」、「光村図書」として、この中から採択していく方向で進めていきたいと考えますが、いかがでしょうか。

(異議なし・全員賛成)

⑤種目 国語

和田委員長…今日の種目は以上になりますが、先日26日の臨時会において、国語と書写について、きちんと絞り込みができなかったため、この場で再度協議をし、2社から3社に絞り込みたいと思います。前回、色々ご意見をいただいていますので、それを整理するかたちで決められたらと思います。前回、国語については、三省堂と光村図書については各委員の皆さんの評価が高かったように思いますが、学校図書、教育出版も加え、引き続き検討すると締めくくりました。そこで、「三省堂」「光村図書」「学校図書」「教育出版」の4社となりましたが、今日はこの4社からさらに絞り込みたいと考えますが、いかがでしょうか。

前田教育長…前回の内容ですが、伝統的な言語文化の教材例の取り上げ方という観点では、各社それぞれが子どもたちの関心を高めるような工夫をされており、どこも評価出来るということでした。漢字や新出語句の関係では、「学校図書」「光村図書」「三省堂」の3社が候補として上げられており、構成・分量・装丁については、どの教科書もバランス良く配列されていますが、「光村図書」は、巻頭では1年間の見通しを示し、各領域の学習内容の見通しが持てることと、振り返りがしやすくなっています。高学年が1冊にまとめられていることも、学習の見通しを持つことや振り返りがしやすくなっており、中学校への移行についても配慮されているということで評価が高いと感じています。

山田委員…前回も申し上げましたが、「三省堂」は、前年度に習った漢字がイラスト入りで載っていました。例えば「面接」と「個人」という漢字では、子どもが「個人」で座っていて、先生が「面接」しているイラストがあり、子どもたちが楽しく、誤解せずに漢字の意味を理解するのではないかと思います。

和田委員長…事務局が桑原委員から聞き取った内容では、桑原委員は「光村図書」を推していました。具体的には、文章のフレーズ感が最も自然であるというこ

と、声を出して楽しむ、聞いて楽しむという編集がされていること、巻末の漢字のまとめが非常に役に立つということ、6年生の「続けてみよう」という、自主性を促す項目が有意義であることなど、4つの視点から、光村図書を推しておられました。実際、「光村図書」の教科書は、どの学年においても、児童の発達の段階に即した魅力的な読み物教材が配置されていること、言語感覚を養うための工夫がされていることなどが評価できると思います。また、言語活動例が具体的でイメージしやすいと思いますが、ほかにはいかがでしょうか。

前田教育長…今の言語活動に関連しては、前回もそういったご意見ありましたが、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の言語活動例の取り上げ方という観点からは、「三省堂」「光村図書」の2社の評価が高いと感じます。

和田委員長…ほかには何かありますでしょうか。

山 口 委 員…前回も申し上げましたが、「三省堂」は、社会科見学をした時のレポートを、写真を撮って、みんなに発表しようといったものがありました。「話す」とか、「しっかりまとめよう」というのが良いと思いました。「話す」ことに関してですが、討論会や、学年が上がるとディベートを行います。教育出版、東京書籍は、この討論のやり方を取り上げています。また、「話すこと・聞くこと」ではないですが、教育出版は、前の学年までに習った漢字を全て五十音順に載せているのに対し、東京書籍は前の学年だけだったので、教育出版のほうが過去に遡って調べやすいと感じました。

前田教育長…「教育出版」では中学校の学習に関連して、6年生の下巻に「中学生になるみなさんへ」というコーナーがあり、司馬遼太郎さんの「21世紀に生きる君たちへ」が取り上げられている。また、調べたことやまとめたことを多様な方法で話したり、聞いたり、友だちと関わったりする討論会やパネルディスカッションを取り上げているということは素晴らしいと思います。

和田委員長…司馬遼太郎さんのことは、前回多く出ましたね。

山 田 委 員…私も前回申し上げましたが、「教育出版」の6年生の教科書で、「中学生へのメッセージ」として司馬遼太郎さんのものがあり、私自身もとても感動したので、子どもたちに読ませたいと思いました。それとあと1つ、詩人

の金子みすゞさんの「わたしと小鳥とすずと」いう詩があつて、私は子どもたちにぜひ読んでほしいと思っています。「すずと、小鳥と、それからわたし、みんなちがって、みんないい。」とあるのですが、いじめとか色々なことがあります、どうしても皆同じようにして、違うものを排除するようなことがあるのですが、皆違うけど、見えない心の中は同じだよというのが分かりやすく書いてあります。光村に載っていますし、三省堂はみすゞさんの詩が4年生で載っています。教育出版ではみすゞ探しの旅ということで、みすゞさんがどのように見つかったかということと詩が載っています。

和田委員長…前回、三省堂については、漢字について丁寧に配慮されているとの意見がありましたね。皆さんからは前回とは重複するような形でご意見をいただきましたが、今まで協議した事柄から、候補の3社を挙げるとすると、「三省堂」「光村図書」「教育出版」の3社の評価が高いと感じます。この3社から採択していく方向で進めていきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(異議なし・全員賛成)

⑥書写

和田委員長…それでは次に書写についての協議をします。まず、事務局が桑原委員から聞き取った内容では、「三省堂」を推されていたということでした。その理由としては、各学年に相応しい題材が多く使われていることや、筆遣いが分かりやすいなど、他にも2点具体的な理由をあげておられました。ほかにいかがでしょうか。

前田教育長…姿勢や筆記用具等の扱いについては、「光村図書」「東京書籍」「学校図書」は2ページに渡って、持ち方を載せており、実物大のお手本として、子どもにとっては参考にしやすく、評価できると思います。

和田委員長…ほかにいかがでしょうか。

山田委員…前回も申し上げましたが、「東京書籍」では、原稿用紙の書き方やメモの取り方、手紙、カードの書き方など、「学校図書」は原稿用紙や絵日記の書き方、絵手紙、うちわなど、「三省堂」もその他にレポートや寄せ書き

の書き方などを載せていました。「教育出版」は年賀状の書き方を載せており、とても実際に役に立つのではないかと思いました。「光村図書」は夏休みの目標やお楽しみ会の目次などの扱い、工芸作品、寄せ書き、自由研究のまとめ方など、子どもたちが実際に使うのに役立つものを載せていると思いました。

和田委員長…姿勢や筆記用具等の扱いについての提示という観点では、いかがでしょうか。前回、「東京書籍」の「思い出そう」というコーナーは、既習事項を想起させるという点で、繰り返し、定着が図れるということで評価できるといった意見がありました。ほかに突出した特長は何かありませんでしょうか。

山口委員…「東京書籍」で、手書きの文字とパソコンを使ったメールのそれぞれの利点と欠点があって、そういうことを話し合う場があって、良いと思いました。年賀状はメールで送る時代で、それはそれで良いと思いますが、手書きの大事さは忘れてはいけないと思いますので、それを取り上げているのが良いと思いました。

和田委員長…「構成・分量・装丁」についてはどうでしょうか。

山田委員…「光村」は、低学年では、ひらがなカタカナが見開きで対応していて、とても分かりやすいと思いました。

和田委員長…「表記・表現」についてはいかがでしょうか。

前田教育長…前回申し上げましたが、「光村」は、「スー、トン」などの擬音を用いて、子どもがイメージしやすいように工夫している点や、字の「良い・悪い」をわかりやすく比較している点が評価できます。擬音を用いて説明しているのは他社でもありましたが、光村は特にわかりやすく感じました。国語科の教科書との関連でも光村の書写の教科書は優れていると思います。

和田委員長…国語の絞った3社にも、光村図書は入っていますね。三省堂については、何かありますでしょうか。私が感じたのは、三省堂で、低学年のところで、力の入れ方を○で表しているところが、毛筆のところであって、分かりやすいと思いました。また、毛筆練習の内容が硬筆練習へとつながりがあるという点が工夫されていると点も前回出ていたと思います。前回出ていない、落としたようなことはほかにありますでしょうか。では、どの教科書

も全体的に工夫されているようですが、前回絞りきれなかったところから、これまでの協議で総合的に判断すると、「光村」「東京書籍」「三省堂」の評価が高いと思います。この3社から採択していく方向で進めたいと考えますが、よろしいでしょうか。

(異議なし・全員賛成)

和田委員長…それでは、今日の分、前回からの引き続きの分も含め、平成23年度使用小学校教科用図書の採択に向けての協議を終了します。次回の8月5日には、全教科の教科書の採択をしたいと思いますので、よろしくお願ひします。

(8) 委員長閉会宣言

平成22年8月24日

委 員 長

署名委員（山田委員）

署名委員（前田委員）